

令和 **3** 年度  
全国学力・学習状況調査

# 報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に  
応じた学習指導の改善・充実に向けて

中学校  
国語

令和**3**年**8**月  
文部科学省 国立教育政策研究所



# 目 次

<b>1. 調査の概要</b> .....	1
(1) 調査の目的 .....	2
(2) 調査の対象とする児童生徒 .....	2
(3) 調査事項及び手法 .....	2
(4) 調査の方式 .....	3
(5) 調査日時 .....	3
(6) 集計児童生徒・学校数 .....	4
(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項 .....	6
<b>2. 教科に関する調査の結果（概要）</b> .....	7
(1) 調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント .....	8
(2) 集計結果（正答等の状況） .....	10
(3) 地域の規模等の状況 .....	12
(4) 都道府県・指定都市の状況 .....	12
(5) 教育委員会の状況 .....	13
(6) 学校の状況 .....	13
(7) 国・公・私立学校の状況 .....	14
<b>3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題</b> .....	15
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方 .....	16
(2) 中学校 国語 .....	19
① 話し合いをする（地域清掃活動） .....	20
② 意見文を書く（言葉の使い方） .....	27
③ 文学的な文章を読む（「吾輩は猫である」） .....	32
④ 電子メールを書く（焼き物作りの体験） .....	41



## 1 . 調査の概要

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象とする児童生徒

#### 【小学校調査】

小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年

#### 【中学校調査】

中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，  
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年

### (3) 調査事項及び手法

#### ① 児童生徒に対する調査

##### ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学〕

国語，算数・数学はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題は学習指導要領（小学校調査においては平成29年告示，中学校調査においては平成20年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

##### イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

#### ② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・生徒指導等
- ・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・各教科の指導方法
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

※調査項目は毎年度文部科学省において決定。

※全国学力・学習状況調査の開始当初（平成19年度）と比べて質問紙調査の質問項目数が増加し、平成30年度より、毎年調査する項目と数年おきに調査する項目を分別し、質問項目数を選定。

(4) 調査の方式  
悉皆調査

(5) 調査日時  
令和3年5月27日(木)

**【小学校調査】**

1 時限目	2 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	児童質問紙 (20～40 分程度)

**【中学校調査】**

1 時限目	2 時限目	
国語 (50 分)	数学 (50 分)	生徒質問紙 (20～45 分程度)

※児童生徒質問紙調査は、一部の国立大学附属学校において、PC・タブレット等の端末を活用したオンラインによる回答方式で実施。

(6) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、令和3年5月27日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年)

	調査対象児童数※1	5月27日に調査を実施した児童数※2	【参考】 5月27日～6月30日に調査を実施した児童数
公立	1,040,907人	994,101人	1,009,674人
国立	6,393人	4,932人	6,308人
私立	13,071人	6,567人	6,911人
合計	1,060,371人	1,005,600人	1,022,893人

(中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，  
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年)

	調査対象生徒数※1	5月27日に調査を実施した生徒数※2	【参考】 5月27日～6月30日に調査を実施した生徒数
公立	989,824人	903,253人	919,949人
国立	10,146人	7,616人	9,851人
私立	81,250人	22,126人	26,261人
合計	1,092,580人	932,995人	956,061人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和2年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。



③ 集計学校数

(小学校, 義務教育学校前期課程, 特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	5月27日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 5月28日～6月30日 に調査を実施し た学校数	【参考】 5月27日～6月30日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	18,965校	18,857校 (99.4%)	82校	18,939校 (99.9%)
国立	75校	61校 (81.3%)	14校	75校 (100.0%)
私立	240校	120校 (50.0%)	7校	127校 (52.9%)
合計	19,280校	19,038校 (98.7%)	103校	19,141校 (99.3%)

(中学校, 義務教育学校後期課程, 中等教育学校前期課程, 特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	5月27日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 5月28日～6月30日 に調査を実施し た学校数	【参考】 5月27日～6月30日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,475校	9,320校 (98.4%)	130校	9,450校 (99.7%)
国立	80校	63校 (78.8%)	17校	80校 (100.0%)
私立	761校	297校 (39.0%)	37校	334校 (43.9%)
合計	10,316校	9,680校 (93.8%)	184校	9,864校 (95.6%)

(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語、算数・数学ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
相関係数	二つの変数間の関係の程度を一つの数値で表す指標。相関係数は、-1から1までの範囲の値をとり、1に近いほど正の相関、-1に近いほど負の相関が強いことを表す。
解答類型	各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

## 2. 教科に関する調査の結果（概要）

## (1) 調査問題の内容，課題等，指導改善のポイント

### ○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（3領域1事項）に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。
- 意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く。
  - 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。
  - 事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く。

### ○課題等

#### 話すこと・聞くこと

- ◇ 話合いの中での質問の意図を捉えることはできている。〔 1二 〕
- ◇◆ 話合いの話題や方向を捉えることはできているが、適切な発言について考えることに課題がある。〔 1一，三 〕

#### 書くこと

- ◇ 書いた文章を互いに読み合う場面において、文章の構成にどのような工夫があるかを捉えることはできている。〔 2二 〕
- ◆ 推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題がある。〔 2一 〕

#### 読むこと

- ◇ 文章を読み、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできている。〔 3三 〕
- ◆ 文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解したりすることに課題がある。〔 3一，二 〕
- ◆ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。〔 3四 〕

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことはできている。〔 4一①，② 〕
- ◇ 事象や行為などを表す多様な語句について理解することはできている。〔 4二 〕
- ◆ 相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。〔 4三 〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点     〔 〕内の記号は、問題番号

## ○指導改善のポイント

### 話すこと・聞くこと

#### ○ 話し合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする指導の工夫

- ・ 話し合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする力を身に付けるために、〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の「話すこと」に関する指導事項と、「聞くこと」に関する指導事項との関連を図って指導する必要がある。例えば、各学年の(2)イに示されているような、目的に沿って、互いの考えを伝え合ったり生かし合ったりする話し合いや議論、討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。具体的には、第1学年では、話題や展開を捉えながら、第2学年では、互いの立場や考えを尊重しながら、第3学年では、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合うことなどについて、生徒の実態を踏まえながら意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。その際、これまでの「A話すこと・聞くこと」の学習で身に付けた資質・能力を、実際の言語活動の中で活用しながら話し合うように指導することも重要である。

### 書くこと

#### ○ 読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える指導の工夫

- ・ 読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、第1学年では、表記や語句の用法、叙述の仕方などを、第2学年では、表現の効果などを、第3学年では、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめることについて指導する必要がある。その際、第1学年〔知識及び技能〕(1)エの「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。」との関連を図ることや、第2学年〔知識及び技能〕(1)オの「話や文章の構成や展開について理解を深めること。」との関連を図ることなども有効である。

### 読むこと

#### ○ 文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする指導の工夫

- ・ 文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の学習過程を意識しながら、各指導事項について意図的・計画的に指導する必要がある。例えば、各学年の(2)イに示されているような、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。また、各学年の〔知識及び技能〕(3)の「読書」に関する事項との関連を図り、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することも有効である。

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

#### ○ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う指導の工夫

- ・ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いについて理解し、適切に使う力を身に付けるために、小学校での学習を踏まえ、敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解するように指導する必要がある。また、話や文章の中で、相手や場に応じた語句を選んで用いることに留意するように指導することも大切である。その際、各学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」(2)イに示されているような、実用的な文章を書く言語活動との関連を図ることも有効である。

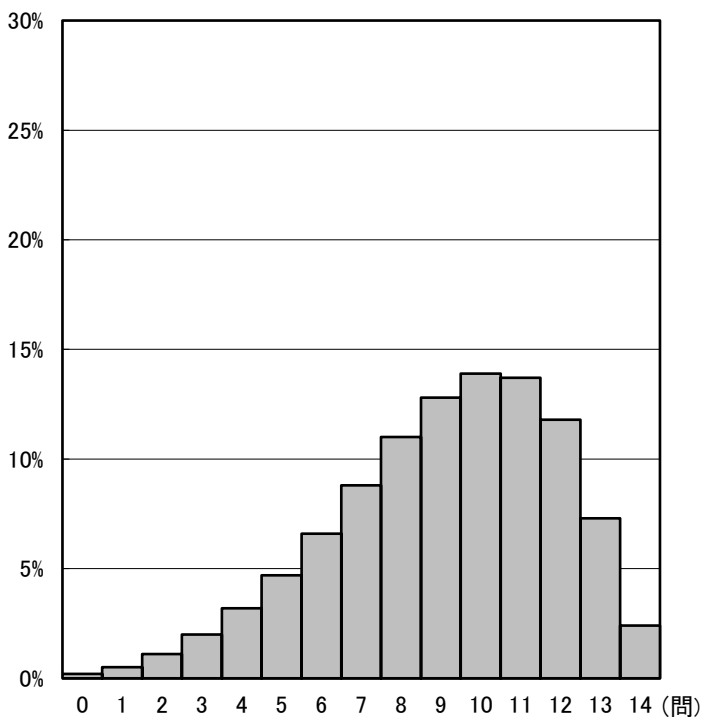
※「指導改善のポイント」の記載は、今後の指導のために、平成29年告示の学習指導要領の内容に基づいている。

## (2) 集計結果 (正答等の状況)

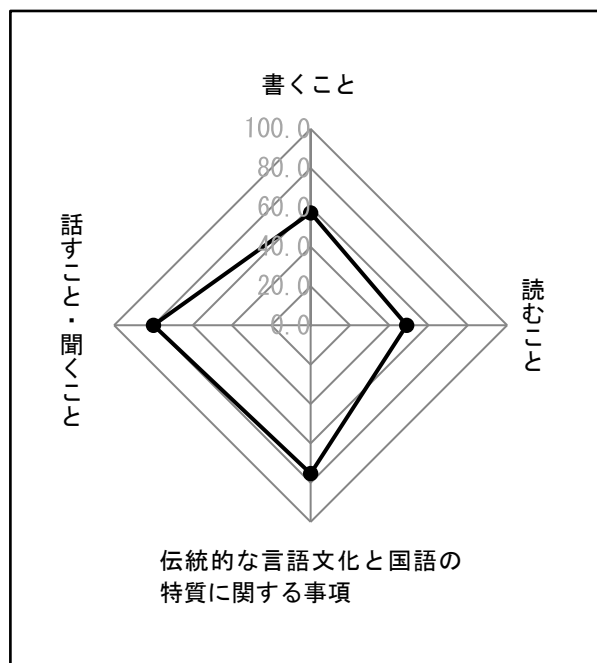
### 【国語】

生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
932,884 人	9.1 問/14 問	64.9%	9.0 問	2.8	10 問

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



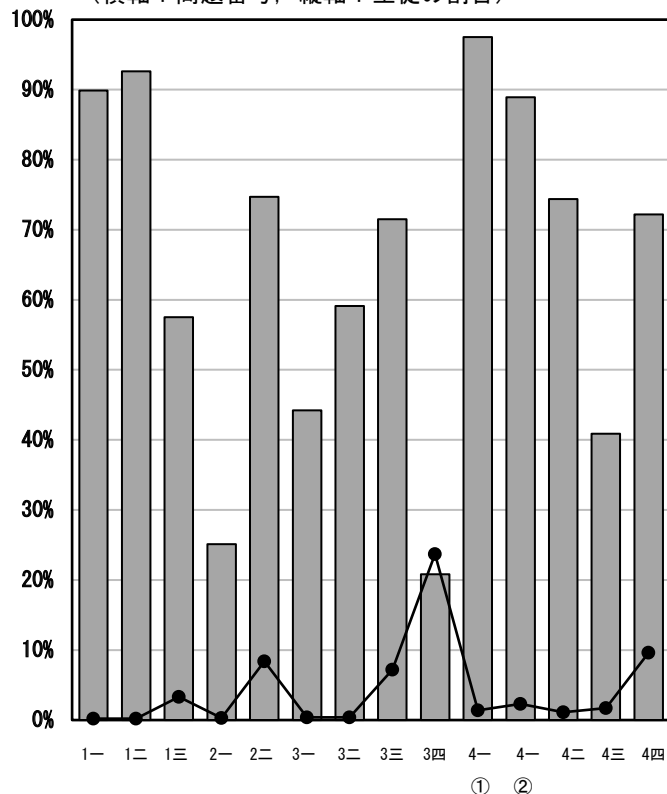
学習指導要領の領域等の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	80.0
	書くこと	3	57.3
	読むこと	4	48.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	75.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.3
	話す・聞く能力	3	80.0
	書く能力	3	57.3
	読む能力	4	48.9
	言語についての知識・理解・技能	4	75.4
問題形式	選択式	6	64.2
	短答式	4	74.7
	記述式	4	56.3

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」  
(横軸: 問題番号, 縦軸: 生徒の割合)



問題別集計結果

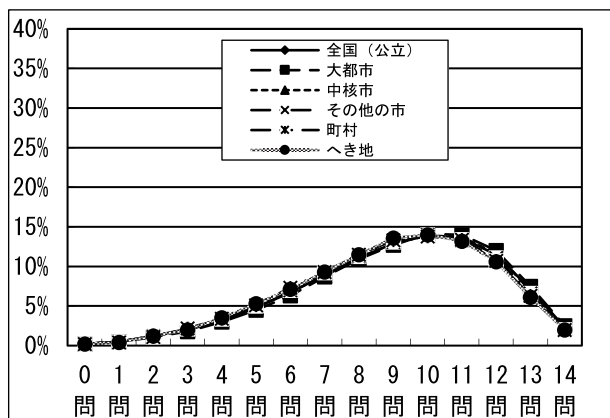
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率 (%)	無解答率 (%)
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式		
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ				○				○			89.9	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1エ				○				○			92.6	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1オ				○	○				○		57.5	3.3
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2エ					○			○			25.1	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2オ				○	○				○		74.7	8.4
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア					○	○			44.2	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ					○	○			59.1	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ					○		○		71.5	7.2
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1オ		○			○		○		20.8	23.7
4一①	漢字を読む（俚ばして）	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(7)					○	○			97.5	1.4
4一②	漢字を読む（詳細）				2(1)ウ(7)					○	○			88.9	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			1(1)イ(9)					○	○			74.4	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2(1)イ(7)					○		○		40.9	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	2ウ				○	○				○		72.2	9.6

### (3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数, 平均正答率, 中央値, 標準偏差を見ると, 地域の規模等(公立: 大都市, 中核市, その他の市, 町村, へき地)による大きな差は見られない。

#### [国語]

正答数分布グラフ(横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国(公立)	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8
大都市	223,526	9.2 / 14	65.4	10.0	2.8
中核市	211,558	9.0 / 14	64.5	9.0	2.8
その他の市	377,687	9.0 / 14	64.0	9.0	2.8
町村	80,990	8.9 / 14	63.8	9.0	2.8
へき地	14,971	8.9 / 14	63.6	9.0	2.8

※大都市(政令指定都市及び東京23区), 中核市, その他の市, 町村の値は, 当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果(正答数)を集計したものである(都道府県立学校は含まない)。

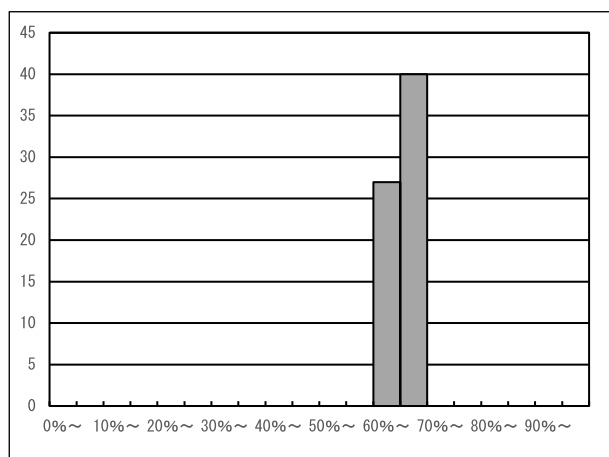
※へき地の値は, へき地教育振興法及び各都道府県の条例(規則)によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市, 中核市, その他の市, 町村の値に重複する。

### (4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市(公立)の状況については, 全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり, 大きな差は見られない。

#### [国語]

正答率分布グラフ(横軸: 平均正答率, 縦軸: 都道府県・指定都市数)



全国(公立)の平均正答率	全都道府県市(公立)中, 最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市(公立)中, 最低平均正答率【全国との差】
65%	69% 【+4%】	60% 【-5%】

※都道府県は指定都市を除く。全国(公立)の平均正答率は整数値で表示している。



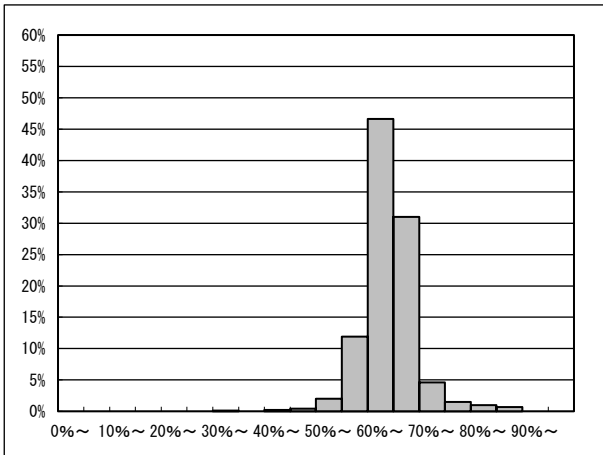
## (5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、平成31年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率(%)	教育委員会の中央値(%)	教育委員会の標準偏差
1,786	9.0 / 14	64.2	64.1	5.1

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：教育委員会の割合）



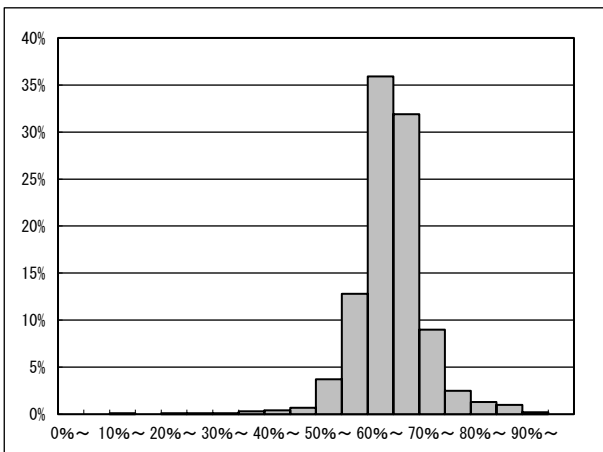
## (6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、平成31年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率(%)	学校の中央値(%)	学校の標準偏差
9,679	9.0 / 14	64.5	64.5	7.0

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：学校の割合）

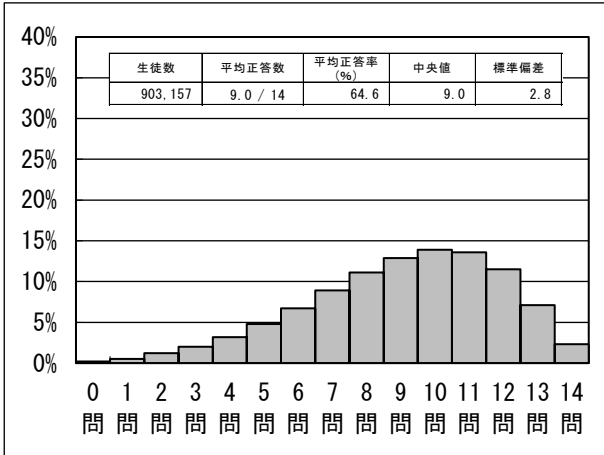


## (7) 国・公・私立学校の状況

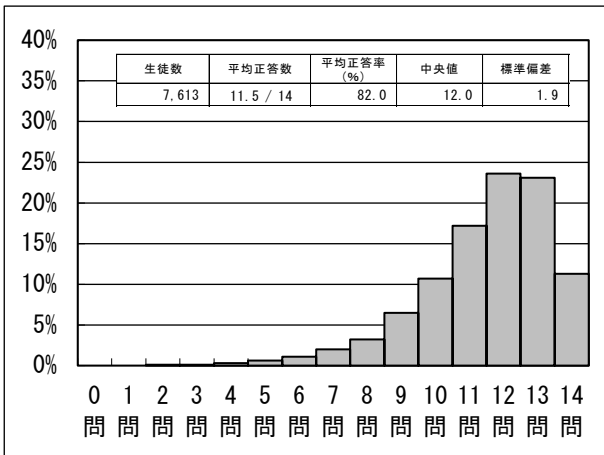
○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

### [国語]

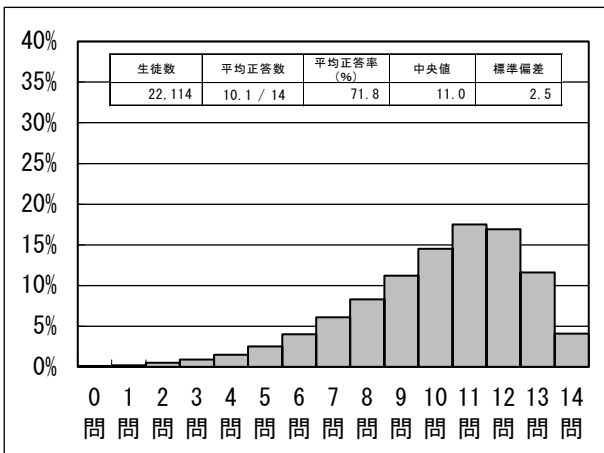
<公立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



<国立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



<私立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



### 3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

### (1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

**問題画像**  
調査問題を縮小して掲載しています。

**出題の趣旨**  
問題ごとに、出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

**趣旨**  
設問ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。  
**■学習指導要領における領域・内容**  
 調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

**1. 解答類型と反応率**  
解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。(詳細は下欄参照)

教科名○ .....

問題画像

出題の趣旨

設問○  
趣旨

■学習指導要領における領域・内容  
(第○学年) .....

**1. 解答類型と反応率**

問題番号	解答	解	答	類	型	反	応	率	正
						(%)			答
○	1	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	◎
	2	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
	3	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
	4	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
	99	上記以外の解答				.....	.....	.....	
	0	無解答				.....	.....	.....	

**解答類型と反応率**

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に注目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答>  
 「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答  
 「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※ 反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。

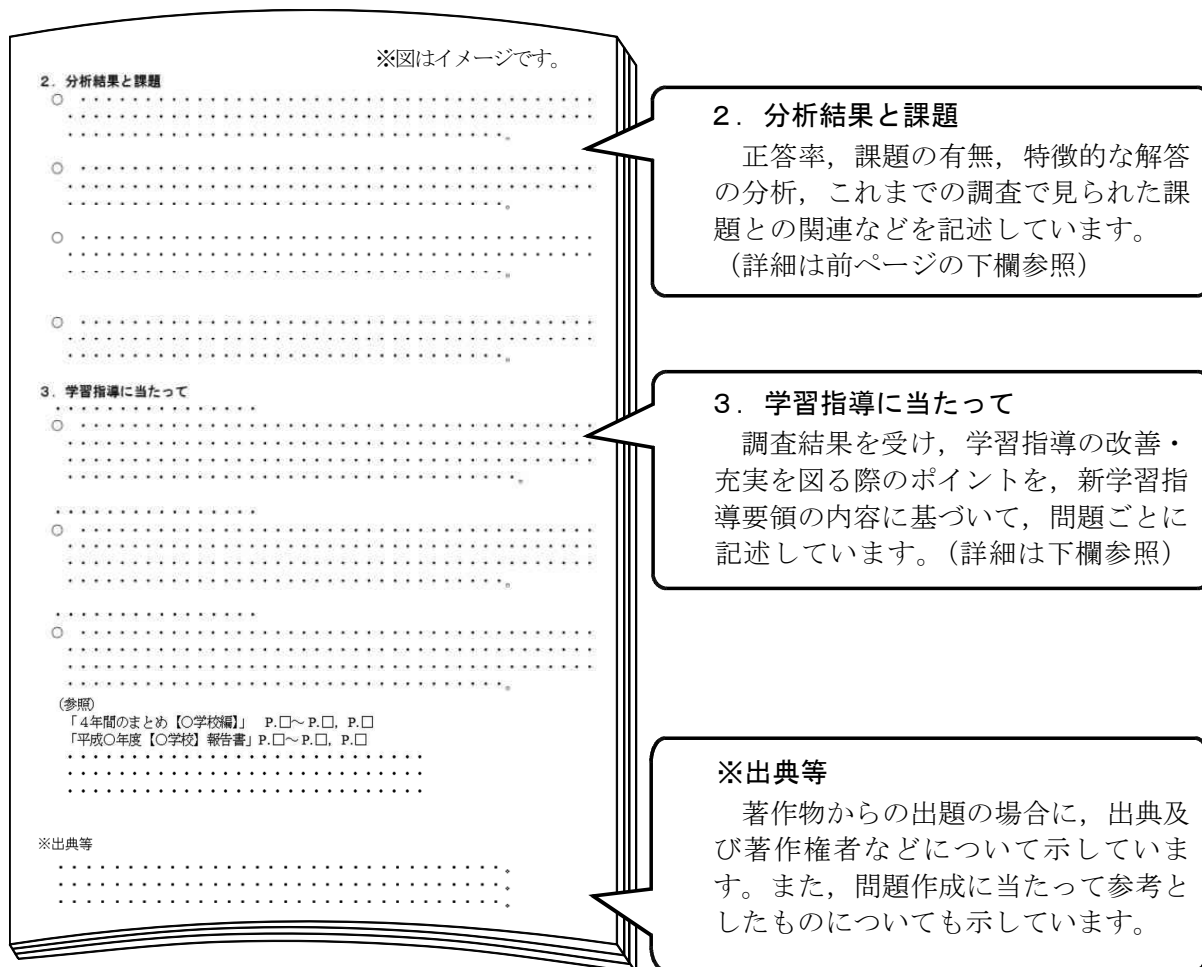
**分析結果と課題**

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連

など

-16-



**学習指導に当たって**

調査問題に関係する領域・内容について，各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に御活用ください。また，本書のほか，授業の改善・充実を図る際の参考となるように，授業のアイディアの一例を示すものとして「授業アイディア例」(本年9月下旬公表予定)を作成しますので，本書及び「解説資料」(本年5月公表)と併せて御活用ください。

なお，関連する過去の調査の報告書や授業アイディア例など，これまで作成した資料の該当ページを記載していますので，これらの資料も併せて御活用ください。

本書では，以下の資料については略称を用いています。

資 料	略 称
「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～【○学校編】」(平成24年9月発行)	「4年間のまとめ【○学校編】」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「平成○年度【○学校】授業アイディア例」
「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【○学校版】」(小学校:平成23年10月発行/中学校:平成24年6月発行/高等学校:平成26年2月発行)	「言語活動事例集【○学校版】」



### 3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

#### (2) 中学校 国語

# 国語 1 話し合いをする (地域清掃活動)

① 各校の取り組みについて、質疑応答に入ります。今日は、原則として、一つの質問に対する答えが終わってから、次の質問をするようにしてください。地域清掃活動を活性化させるために、他校に聞きたいことはありませんか。

② 第一中学校に質問があります。担当する清掃場所を細かく分ける取り組みに興味をもったのですが、その取り組みで清掃活動はどのように活性化したのですか。

③ 第一中学校では、清掃場所を細かく分け、担当する場所を自分たちで決めることによって、一人一人が責任をもって活動するようになりました。また、本校は地域の方と合同で清掃活動を行っているのですが、そのための事前打ち合わせに、昨年度は担当場所の代表も参加しました。その結果、地域の方と一緒協力して取り組むことができるようになりました。

④ 一人一人が責任をもって活動するようになったということですね。また、地域の方との打ち合わせに担当場所の代表が参加したことも、活性化につながったということでした。青空中学校の山下さん、よろしいですか。

⑤ はい。ありがとうございます。青空中学校では、生徒だけで清掃活動を行っていますが、今後は地域の方と合同で行うことも検討してみたいと思います。そこで、もう少し質問したいことがあります。第一中学校では、地域の方との合同の清掃活動をどのような手順で進めているのかを、具体的に教えてくださいませんか。

⑥ 西中学校でも、地域の方との合同の清掃活動を考えたいと思います。また、実施回数も見直そうと思うのですが、回数を増やしたことで生徒たちの取り組み方がどう変わったのかを、青空中学校に質問したいです。

話し合いの一部

梅山市中学校代表者会議 資料

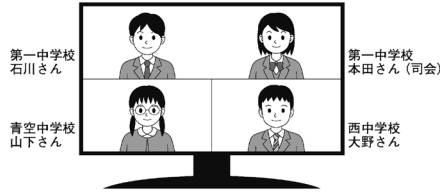
- 日時 5月20日(木) 15:50~16:30
- 参加者 第一中学校:本田(司会)、石川  
青空中学校:山下  
西中学校:大野
- 目的 各校での地域清掃活動を活性化するために、昨年度行った取り組みの工夫について情報交換を行う。
- 会議の流れ
 

(1) 会議の目的の説明	(3分)
(2) 各校の取り組みの報告	(各校3分)
(3) 質疑応答	(25分)
(4) まとめ	(3分)
- 各校の取り組み
 

学校名	昨年度行った工夫
第一中	担当する清掃場所を細かく分ける。
青空中	実施回数を年1回から3回に増やす。
西中	実施時期を5月から8月に変える。

資料

1 梅山市の中学校では、各校の代表が参加し、地域清掃活動についてテレビ会議を行っています。この会議の司会は、第一中学校の本田さんです。次は、各校の代表に配られた「資料」と、「資料」にある(3)「質疑応答」での「話し合いの一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(「話し合いの一部」の①から⑥は、発言の順序を表しています。)



選んだ参加者

① 本田さん    ② 石川さん    ③ 山下さん

④ 大野さん

一選んだ参加者の記号を塗りつぶしなさい。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

条件1 「話し合いの一部」の①から⑥までのやりとりを踏まえ、どのようなことについて発言すればよいかを書いてください。

条件2 条件1のように考えた理由を具体的に書くこと。

三 西中学校の大野さんの発言⑥のあとで、参加者の一人が発言します。あなたは、誰がどのようなことについて発言するよいかを考えますか。また、そのように考えたのはなぜですか。本田さん、石川さん、山下さんの中から一人を選び、⑦の参加者を選んでください。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間書き加えたりしてもかまいません。

- 1 石川さんの発言の中で納得できなかったことについて、発言の根拠を明らかにするために質問をしている。
- 2 石川さんの発言の中で理解できなかったことについて、発言の意図を確かめるために質問をしている。
- 3 石川さんの発言の中で関心をもったことについて、さらに詳しく知るために質問をしている。
- 4 石川さんの発言の中で共感したことについて、共通点を明確にするために質問をしている。

二 「話し合いの一部」における青空中学校の山下さんの発言⑤について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 話し合いの方向を転換する役割。
- 2 参加者の発言の要点を確認する役割。
- 3 参加者の発言の不足を指摘する役割。
- 4 話し合いの進行の仕方を提案する役割。

一 「話し合いの一部」における司会の本田さんの発言④は、話し合いの中でどのような役割を果たしていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。



## 出題の趣旨

- ・ 話合いの話題や方向を捉えること
- ・ 質問の意図を捉えること
- ・ 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えること

話合いは、話すことと聞くことが交互に行われるところにその特徴がある。それぞれの生徒が話し手でもあり聞き手でもある言語活動であり、また、話すことと聞くことが同時に展開する言語活動でもある。そのため、話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関連を図って指導する必要がある。さらに、話したり聞いたりすることを通して、自分の考えを広げたり深めたりしようとする態度を育むことも求められる。

報告や紹介を基にした話合いにおいては、話し手は、伝える事柄や事実と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すことが大切である。また、何のために報告したり紹介したりするのかという目的や、相手はその話題についてどのような点に関心があり、どのような情報を既にもっているかなどの状況によって、報告や紹介の仕方が変わってくることに留意することも重要である。聞き手は、必要に応じて質問し、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりすることが大切である。その際、場の状況に応じて話の途中で質問したり、話が終わった時点で質問したりするなど、質問の適切な機会を捉えることが重要である。

さらに、司会は、小学校での学習を踏まえ、話合いが目的に沿って進むよう、参加者に発言を促したり、参加者の発言を整理したりすることが大切である。一方、参加者も、話合いが課題の解決に向かうように進め方を提案したり、話合いが効率よく進むように協力したりすることが重要である。そのためには、自分の意見を述べたり相手の話を聞いて判断したりする力に加えて、話合いの過程で進み具合を客観的に把握したり、それまでの話合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えたりすることが必要になる。

本問では、複数の中学校の代表が参加し、地域清掃活動についてテレビ会議を行っている場面を設定した。話合いにおける司会の役割について考えたり、参加者の質問の意図を捉えたりすることに加え、話合いの話題や方向を捉えて、話す内容について考えることを求めている。

### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

### 設問一

#### 趣旨

話合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみる。

### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。 《話し合うこと》

## 1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	一	1	1と解答しているもの	4.2	
		2	2と解答しているもの	89.9	◎
		3	3と解答しているもの	1.9	
		4	4と解答しているもの	3.8	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.2	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型1, 3, 4の反応率の合計は9.9%である。このように解答した生徒は、司会の本田さんの④の発言が、質問者を含む参加者に対して、石川さんの③の発言の要点を確認する役割を果たしているものであることを捉えることができているものと考えられる。また、選択肢1, 3, 4のそれぞれの内容は、話し合いを効果的に進めるために必要なものであるが、具体的にどのような場面でのどのような発言を指すのかが理解できていないものとも考えられる。選択肢1については、話し合いが停滞したり、議論が偏ったものになったりしている場面において、話し合いを進展させるために司会などがこのような役割を果たす発言をすることがある。選択肢3については、参加者の発言に不備があったり、発言に加えた方がよい内容があったりする場面において、司会などがこのような役割を果たす発言をすることがある。選択肢4については、話し合いを始めたり、話し合いの仕方を修正したりする場面において、司会などがこのような役割を果たす発言をすることがある。指導に当たっては、実際の言語活動の中で、話し合いの目的や場面に応じて、各選択肢で示したような役割を果たす発言を意識するように促すことも考えられる。

## 設問二

## 趣旨

質問の意図を捉えることができるかどうかをみる。

## ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

エ 必要に応じて質問しながら聞き取り, 自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。  
《聞くこと》

## 1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	二	1	1と解答しているもの	1.5	
		2	2と解答しているもの	3.0	
		3	3と解答しているもの	92.6	◎
		4	4と解答しているもの	2.7	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.2	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型1, 2, 4の反応率の合計は7.2%である。このように解答した生徒は、山下さんの⑤の発言が、山下さんの②の発言や石川さんの③の発言を受けたものであることを捉えることができていないものと考えられる。「担当する清掃場所を細かく分ける取り組みに興味をもったのですが、その取り組みで清掃活動はどのように活性化したのですか。」という山下さんの質問を受けて、石川さんは「一人一人が責任をもって活動するようになりました」と回答した上で、「地域の方と合同で清掃活動を行っている」という自校の取組を紹介している。山下さんは、追加で説明のあったこの取組に関心をもち、「地域の方との合同の清掃活動をどのような手順で進めているのかを、具体的に教えてもらえますか」と石川さんに再び質問をしている。また、選択肢1, 2, 4については、目的や場面によっては、このような意図で質問をする場合もある。指導に当たっては、実際の言語活動の中で、話合いの目的や場面に応じて、各選択肢で示したような観点での発言を意識するように促すことも考えられる。

## 3. 学習指導に当たって

### 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉える

報告などを聞く際には、話の内容を理解するために、必要に応じて重要な情報を書き留めたり、分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを話し手に尋ねたりするように指導することが引き続き大切である。必要な内容を記録する際には、重要であると判断した情報をキーワードとして書き留めたり、気付いたことを書き加えたりするなど、効果的な記録の取り方ができるように指導することが重要である。また、話し手に質問する際には、その場の状況に応じて話の途中で質問したり、話が終わった時点で質問したりするなど、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問するように指導することも重要である。

例えば、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の(2)「ア紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。」などとの関連を図った学習活動が考えられる。その際、「話題の設定、情報の収集」の段階から、聞き手としてどのような立場に立ち、何を聞こうとするのかを意識するように指導することが重要である。

### 設問三

#### 趣旨

話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるかどうかをみる。

#### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。 《話し合うこと》

## 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
①	三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 本田さん、石川さん、山下さんの中からいずれか一人を選んで、その記号を塗り潰している。 ② 【話し合いの一部】の①から⑥までのやりとりを踏まえ、どのようなことについて発言すればよいのかを書いている。 ③ ②のように考えた理由を具体的に書いている。		
		(正答例) ・ A 本田さんが、次の発言者として石川さんを指名する発言をすればよい。なぜなら、山下さんの質問に石川さんが答える前に、大野さんが別の質問をしたからだ。 ・ B 石川さんは山下さんの質問にまだ答えていないので、石川さんが、その質問に対する答えとなる地域の方との清掃活動の手順について発言すればよい。 ・ C 山下さんが、自分の質問に先に答えてほしいということについて発言すればよいと考えます。なぜなら、石川さんがまだ山下さんの質問に答えていないのに、大野さんが山下さんに次の質問をしたからです。		
	1	条件①, ②, ③を満たしているもののうち、山下さんの発言⑤への回答が必要であることに触れて解答しているもの	34.5	◎
	2	条件①, ②, ③を満たしているもののうち、山下さんの発言⑤への回答が必要であることに触れずに解答しているもの (例) ・ C 大野さんに質問されているので、実施回数を増やしたことで生徒たちの取り組み方がどう変わったのかについて説明するとよい。	23.1	○
	3	条件①, ②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	22.8	
	4	条件①, ③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	4.3	
	99	上記以外の解答	12.1	
	0	無解答	3.3	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ A  
「大野さん、原則として、一つの質問に対する答えが終わってから、次の質問をするようにしてください。」と発言する。
- ・ B  
「地域の方との合同の清掃活動をどのような手順で進めているのか」について、第一中学校でどのように取り組んでいるかを説明する。
- ・ C  
実施回数を増やしたことによる効果について発言すればよい。

このように解答した生徒は、話合いのやりとりを踏まえ、誰がどのようなことについて発言すればよいのかを指摘することはできているが、そのような発言をする理由を具体的に示すことができていない。

- 解答類型4について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ A  
第一中学校への質問と青空中学校への質問が、連続して出されているから。
- ・ B  
理由は、大野さんが山下さんに質問するより前に、山下さんが石川さんに質問しているから。
- ・ C  
大野さんが「青空中学校に質問したいです」と言っているので、山下さんが答えればよい。

このように解答した生徒は、話合いのやりとりを踏まえ、どのような発言をすればよいのかを示すことができていない。

### 3. 学習指導に当たって

#### 話題や展開を捉えながら話し合う（対応設問：設問一・三）

話題や展開を捉えながら話し合うためには、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識するように指導することが大切である。その際、多くの発言によって考えを広げていく段階や、出された発言の内容を整理しながら考えをまとめる段階など、話し合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりするように指導することが重要である。また、このような展開を司会だけではなく、他の参加者が促すことができるように指導することも重要である。

例えば、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の(2)「ア紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。」などとの関連を図った学習活動が考えられる。その際、ICT機器を活用して話し合いの様子を動画で記録し、発言の仕方や内容を振り返るように指導することも効果的である。

なお、国語科で育成するこのような言語能力については、各教科等における話し合いを取り入れた言語活動の更なる充実に資するものとなるよう、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることも大切である。

指導に当たっては、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>1</sup>三に係る授業アイデア例「対談を読んで考えたことを基に座談会を行う。」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>1</sup>二に係る授業アイデア例「話し合いの動画を見ながら、司会の役割を話し合う」、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査【中学校】国語<sup>2</sup>三に係る授業アイデア例「『話し合いのデザインシート』を用いて話し合おう」も参考になる。

（参照）

「平成24年度【中学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4

「平成24年度【中学校】報告書」P. 188～P. 189

「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P. 7

「平成31年度（令和元年度）【中学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6

# 国語 2 意見文を書く (言葉の使い方)

2 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いています。次は、山田さんが書いた「意見文の下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。**①**から**④**は、段落の番号を表します。

### 【意見文の下書き】

**①** SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) などを活用し、インターネット上で文字を通したりりする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。**④**(からだ)

**②** 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで待ち合わせの相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何て来るの。」と書いたところ、「どうして行ってはダメなの。」という返信が来て、はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか。」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないように「いねいに書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。」**⑤**(集合場所までどうやって来るの。)

**③** 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

**④** SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。

- 1 山田さんは、「意見文の下書き」を読み返して、**①**と**⑤**のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。
- 1 **①**段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。
  - 2 **②**段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
  - 3 **③**段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
  - 4 直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
  - 5 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

二 山田さんが書いた「意見文の下書き」の構成にはどのような工夫がありますか。複数の段落に着目して、あなたの考えを書きなさい。その際、**①**、**②**などの段落の番号をしながら書くこと。  
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

## 出題の趣旨

- ・ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと
- ・ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること

文章を推敲する際には、読みやすく分かりやすい文章にするために、書き手としてだけでなく、読み手の立場に立って文章を整えることが大切である。例えば、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、文章を読み返すことが求められる。その際、伝えたい事柄等にふさわしい語句や文の使い方になっているか、段落の設け方、段落相互の関係は適切か、全体と部分の関係はどのようになっているかなどについて検討することが重要である。

また、書いた文章を互いに読み合い、自分の表現に役立てるとともに、自分の考えを広げたり深めたりすることも大切である。その際、これまでの「B 書くこと」の学習を踏まえ、根拠の明確さ、文章の構成や材料の活用の仕方、表現の仕方など、観点を明確にして交流することが重要である。

さらに、これらの学習を通して、進んで文章を書き、自分の考えを広げたり深めたりしようとする態度を育む必要がある。その際、書くことの意義と役割を認識し、書くことによって、複雑な事象の中身や、物事に対する多様な考え方などが整理され、自分の考えを広げることにつながっていくことなどが理解できるように指導することが重要である。

本問では、意見文の下書きを推敲したり、交流したりする場面を設定した。文章を直した意図について考えたり、文章の構成の工夫について考えたりすることを求めている。

### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 B 書くこと

イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

## 設問一

### 趣旨

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。

### ■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。 《推敲》

## 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	1 ①の欄に4、②の欄に1と解答しているもの	25.1	◎
	2 ①の欄に4と解答し、②の欄に1と解答していないもの	37.2	
	3 ②の欄に1と解答し、①の欄に4と解答していないもの	4.7	
	99 上記以外の解答	32.7	
	0 無解答	0.3	



## 2. 分析結果と課題

- 解答類型 2, 3 の反応率の合計は41.9%である。このように解答した生徒は、選択肢にある意見や根拠、具体例といった言葉と、【意見文の下書き】の記述とを結び付けて捉えることに課題がある。

解答類型 2 の生徒は、**2**段落が、**1**段落で述べている「私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。」という意見の根拠となる具体例について説明したものであることを捉えることができていないものと考えられる。解答類型 3 の生徒は、「SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。」という元の文のままでも、直前の文で述べている意見の根拠であることは分かるが、そのことをより明確にするために「からだ」を加えていることが理解できていないものと考えられる。また、直前の文が、書き手の意見であることを捉えることができていないものとも考えられる。

## 3. 学習指導に当たって

### 読み手の立場に立って文章を整える

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する必要がある。その際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切である。

例えば、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかを確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現にしていくように指導することが重要である。

### 設問二

#### 趣旨

書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えることができるかどうかをみる。

#### ■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。 《交流》

## 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
<b>2</b> 二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【意見文の下書き】の構成にどのような工夫があるのかが分かるように書いている。 ② 複数の段落に着目して、 <b>1</b> 、 <b>2</b> などの段落の番号を示しながら書いている。		

	(正答例)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①段落で自分の意見を述べ、④段落で繰り返し述べるという工夫があり、伝えたいことが明確になってよいと思う。</li> <li>・ ③段落で自分の意見に対して予想される反論について述べることで、④段落の意見に説得力をもたせている。</li> <li>・ ②段落で具体例について述べることで、①段落や④段落の意見が分かりやすくなっていると思います。</li> <li>・ ①段落で伝えたいことを述べ、②段落でその根拠となる具体例を示し、③段落で予想される反対の考えを示し、④段落でもう一度伝えたいことを述べています。</li> </ul>		
1	条件①、②を満たして解答しているもの	74.7	◎
2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	9.8	
3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	2.6	
99	上記以外の解答	4.5	
0	無解答	8.4	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型2について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 読み手に分かりやすく伝わるように、自分の実体験や考えについて段落を分けて書いている。

このように解答した生徒は、文章の構成の工夫について触れているが、【意見文の下書き】のどの部分のことなのかを具体的に示すことができていない。

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ ①段落で「相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある」と書いたことについて、②段落で「はっとさせられたことがあった」と教えてくれている。
- ・ ①段落では（ ）を使い、②段落では「 」を使っていて、読みやすく分かりやすい表現になっていると思いました。

このように解答した生徒は、【意見文の下書き】に書かれている内容を取り上げたり、表現の工夫について触れたりしているが、文章の構成にどのような工夫があるのかを示すことができていない。

### 3. 学習指導に当たって

#### 読み手からの助言などを踏まえて、自分が書いた文章のよい点や改善点を見いだす

書いた文章を互いに読み合う際には、「構成の検討」、「考えの形成」、「記述」、「推敲」の各段階を踏まえ、特に、当該学年で重点としている内容に着目するように指導することが大切である。その際、読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な部分や事柄を取り上げて助言などをするように指導することが重要である。また、書き手は、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章が他者にどう読まれるかを自覚し、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得るように指導することも重要である。

例えば、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(2)「ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。」などとの関連を図り、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書くとともに、書いた文章を互いに読み合うなどの学習活動が考えられる。その際、必要に応じて、「B書くこと」の他の指導事項について確認したり、既習内容を振り返ったりするように指導することも効果的である。



- 一 線部①「呼吸をのみこんだ」とありますが、この部分の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 コツをつかんだ。
- 2 息を吸い込んだ。
- 3 ため息を抑えた。
- 4 発言を我慢した。

二 線部A「喝采してやる」、線部B「とった」のそれぞれについて、「吾輩」の動作である場合は1、「黒」の動作である場合は2、「亭主」の動作である場合は3を選びなさい。

三 線部②「反対の結果を呈出した」とありますが、このことは「黒」のどのような様子から分かりますか。「文章の一部」の中から探し、抜き出さなさい。

四 「紹介」に「線部」様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「文章の一部」から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書きなさい。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書きなさい。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--

### 出題の趣旨

- ・ 文脈の中における語句の意味を理解すること
- ・ 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること
- ・ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること
- ・ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと

「C 読むこと」の学習においては、読む目的や意図を明確にすることが大切である。読むことによって何を得て、どう活用するのかという意識をもち、本や文章などの内容や形態に応じて読む必要がある。また、小学校における読書の経験など、これまでに学んだことを生かし、読書を通してものの見方や考え方を広げたり、読書を生活に役立てたり、読書を通して自己を向上させたりしようとする態度を育むことも求められる。読書活動は本来読み手の個人的な活動であり、自主性や自発性を尊重することが重要である。しかし、生徒の読書に対する興味・関心は多様であるため、個に応じた、計画的かつ継続的な指導によって読書を価値あるものとして認識できるようにすることが大切である。

文学的な文章を読むに当たっては、幅広く文学作品に目を向け、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりすることも必要である。その際、これまで読み継がれてきた近代以降の代表的な作家の作品を取り上げることも考えられる。生徒にとってはなじみの薄い一見難解な文章であっても、表現や背景に着目して豊かに読み味わう経験をすることで、他の様々な作品に対する興味・関心を喚起することが期待できる。

本問では、夏目漱石の「吾輩は猫である」の一部と本のカバーに書かれている紹介を取り上げた。文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開や登場人物の描写に注意して読んで内容を理解したりするとともに、本のカバーに書かれている紹介を参考にしながら、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつことを求めている。

### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 C 読むこと

ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。

〔第2学年〕 C 読むこと

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

### 設問一

#### 趣旨

文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかをみる。

### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。 《語句の意味の理解》

### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
③	1	1と解答しているもの	44.2	◎
	2	2と解答しているもの	9.6	
	3	3と解答しているもの	9.4	
	4	4と解答しているもの	36.4	
	99	上記以外の解答	0.0	
	0	無解答	0.4	

### 2. 分析結果と課題

○ 解答類型2～4の反応率の合計は55.4%である。このように解答した生徒は、「この呼吸をのみこんだ」の「この」が何を指しているのかを確かめながら、文脈に即して言葉の意味を的確に捉えることに課題がある。

解答類型2, 3の生徒は、「呼吸」という言葉の「息を吸ったり吐いたりすること」などという意味や、「のみこむ」という言葉の「抑えて外へ出さないようにする」、「我慢する」などという意味を踏まえているが、「呼吸」には「コツ」、「物事をうまく行う要領」という意味もあることを理解し、文脈に沿って捉えることができていないものと考えられる。解答類型4の生徒は、「のみこむ」という言葉の「抑えて外へ出さないようにする」、「我慢する」などという意味を踏まえているが、「呼吸」という言葉の意味を的確に捉えることができていないものと考えられる。

### 3. 学習指導に当たって

#### 文脈の中における語句の意味を理解しながら文学的な文章を読む

文学的な文章を読むためには、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めるように指導することが大切である。その際、第1学年〔知識及び技能〕(1)「ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」との関連を図り、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉え、その語句が文章の中で果たしている役割を考えるように指導することが有効である。また、「エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。」との関連を図り、指示する語句や接続する語句が、文章の中で果たしている役割などに注意するように指導することも有効である。

例えば、文学的な文章を読んで新しく出合った言葉を複数取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を捉えるなどの学習活動が考えられる。その際、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりするなど、実際の文章の中で使うことができるように指導することも重要である。

#### 設問二

##### 趣旨

場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。

#### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

《文章の解釈》

#### 1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
3	二	1	Aの欄に1, Bの欄に2と解答しているもの	59.1	◎
		2	Aの欄に1と解答し, Bの欄に2と解答していないもの	18.3	
		3	Bの欄に2と解答し, Aの欄に1と解答していないもの	6.9	
		99	上記以外の解答	15.3	
		0	無解答	0.4	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型2について、このように解答した生徒は、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、「とった」が誰の動作なのかを捉えることに課題がある。「とった」が含まれる文は、「黒」が「吾輩」に語っている会話の一部である。「人のとった」の「人」は、ここでは「黒」自身のことを指していることを捉えることができているものと考えられる。また、「人のとった」の「人」という表現だけに着目し、「人間」という意味に捉えて、選択肢3の「亭主」などを選んだものとも考えられる。

## 3. 学習指導に当たって

### 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える

文学的な文章を読む際には、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えるように指導する必要がある。その際、目的に応じて、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えるように指導することが大切である。

例えば、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(2)「イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。」などとの関連を図った学習活動が考えられる。その際、本問のように近代以降の代表的な作家の作品を取り上げ、必要に応じて語注なども参考にして、行動や会話、地の文などの叙述を読み分けながら内容を捉えるように指導することも効果的である。

指導に当たっては、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B3に係る授業アイデア例「プロの朗読を参考に、『走れメロス』の一場面を工夫して朗読する。」、言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】国語-3「『蜘蛛の糸』を朗読しよう」も参考になる。

(参照)

「平成24年度【中学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6

「平成24年度【中学校】報告書」P. 208～P. 209

「言語活動事例集【中学校版】」P. 23～P. 24

## 設問三

### 趣旨

登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかどうかをみる。

### ■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 C 読むこと

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。 《文章の解釈》



## 1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
3	三	1	「彼は喟然として大息という(。)',「すこぶるおこったようすで背中の毛を逆だてている」のように解答しているもの * 「喟然として大息という',「すこぶるおこったようす',「背中の毛を逆だてている」などと解答しているものも正答とする。	71.5	◎
		99	上記以外の解答	21.4	
		0	無解答	7.2	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型99について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)
・ 前足をあげて鼻の頭を二、三べんなでまわした。
・ 黒のごきげん

このように解答した生徒は、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することに課題がある。「反対の結果を呈出した」の「反対の結果」とは、「黒のごきげんをとるため」の「吾輩」の質問が、予想に反して「黒のごきげん」を損ねたことであり、このことを叙述に沿って捉えることができているものと考えられる。また、「黒のごきげんをとるためのこの質問」の「この」が、直前の「しかし鼠なら、……色つやがいいのだろう。」を指していることを捉えることができているものとも考えられる。

## 3. 学習指導に当たって

### 登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てる

文学的な文章を読む際には、登場人物の言葉や行動が話の展開などにどのように関わっているかを考えながら読むよう指導することが大切である。その際、これまでの「C読むこと」の学習を踏まえて、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うように指導することが大切である。

例えば、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(2)「イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。」などとの関連を図った学習活動が考えられる。その際、引用箇所をかぎ(「 」)でくくること、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認することも大切である。

指導に当たっては、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語-8「登場人物のその後の生き方を考える(『夏の葬列』)」も参考になる。

(参照)

「言語活動事例集【中学校版】」P.33～P.34

## 設問四

## 趣旨

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

## ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。 《自分の考えの形成》

## 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
③	四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書いている。 ② ①で引用した表現から、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書いている。 ③ ②のような「吾輩」の接し方について、自分の考えを具体的に書いている。		
		(正答例) ・ 「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。 ・ 「腕力と勇気とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」と書かれていて、黒に敬意をもって接していることが分かります。相手の悪い面だけでなく、よい面にも目を向けることは大切なことだと思います。 ・ 「元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあって」と相手を見下すような接し方をしていて、あまりよい気持ちがしない。		
	1	条件①, ②, ③を満たして解答しているもの	20.8	◎
	2	条件①, ②を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの	2.1	
	3	条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	0.3	
	4	条件②, ③を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	44.8	
	99	上記以外の解答	8.4	
0	無解答	23.7		

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型2について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「吾輩」は「腕力と勇気とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」と評価している。また、「吾輩」は「黒」のごきげんをとるような接し方をしている。
- ・ 吾輩は「うまくやったね」などと評価し、腰を低くして黒に接しているところがよいと思う。

このように解答した生徒は、「吾輩」の「黒」への接し方について、自分の考えを具体的に示すことができていない。

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「はなはだ御しやすい猫である」と書かれている。私は、どんな相手であってもそのような考えをもつのはよくないことだと思う。

このように解答した生徒は、引用した表現から「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているのが分かるのかを示すことができていない。

- 解答類型4について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 吾輩は茶臼で寝ころびながら黒と話をしていて、相手の話をよく聞きながら接していることが分かります。吾輩と黒はとても仲がよいのだと感じました。

このように解答した生徒は、「吾輩」が「黒」を評価している表現を文章の中から適切に引用することができていない。

(例)

- ・ 吾輩は黒を少し見下して接している。このような接し方は相手に失礼だと思う。

このように解答した生徒は、「吾輩」が「黒」を評価している表現を文章の中から引用することができていない。

### 3. 学習指導に当たって

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする

文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要がある。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切である。

例えば、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(2)「イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。」などとの関連を図った学習活動が考えられる。その際、第1学年〔知識及び技能〕(2)「イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」との関連を図り、引用の仕方について理解を深めるように指導することも有効である。また、第1学年〔知識及び技能〕(3)「オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。」との関連を図り、読書をすることによって、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感できるように指導することも有効である。

指導に当たっては、平成23年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>3</sup>に係る授業アイデア例「これから読みたい本のブックリストを作成し、本を読む。」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>2</sup>に係る授業アイデア例「星新一の作品を読んで、感想交流会を開こう」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語－3『『蜘蛛の糸』を朗読しよう』、国語－8「登場人物のその後の生き方を考える（『夏の葬列』）」、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>8</sup>「文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くすることができるかどうかをみる。」も参考になる。

(参照)

「平成23年度【中学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6

「4年間のまとめ【中学校編】」P. 98～P. 99

「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P. 11～P. 12

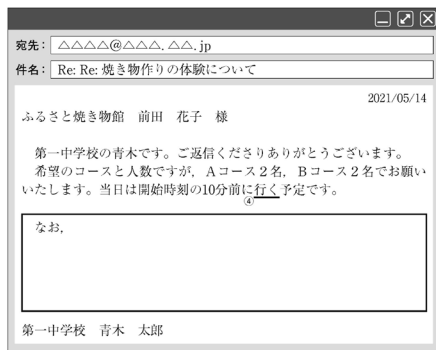
「言語活動事例集【中学校版】」P. 23～P. 24, P. 33～P. 34

#### ※出典等

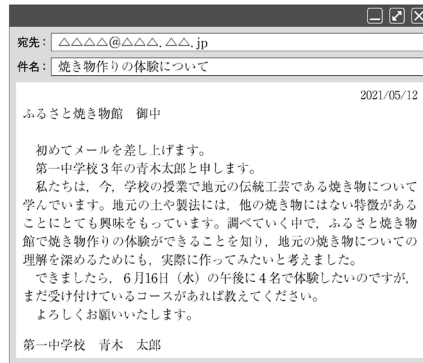
【紹介】は、夏目漱石『吾輩は猫である 上』（1995年6月 集英社）、夏目漱石『吾輩は猫である 下』（1995年6月 集英社）、夏目漱石『吾輩は猫である』（2003年6月 新潮社）、夏目漱石『吾輩は猫である』（2011年11月 文藝春秋）、夏目漱石『新装版 吾輩は猫である（上）』（2017年7月 講談社）、夏目漱石『吾輩は猫である』（2020年2月 KADOKAWA）などを参考にした。

【文章の一部】は、夏目漱石『吾輩は猫である（上）』（1996年7月 偕成社）による。

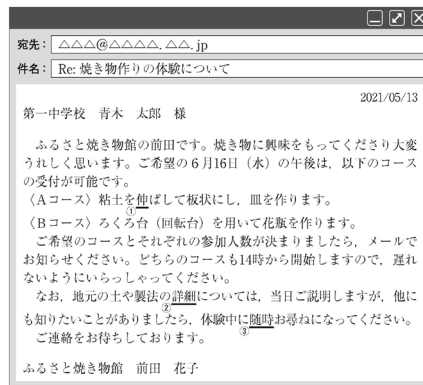
# 国語 4 電子メールを書く（焼き物作りの体験）



青木さんが送信する「二回目のメールの下書き」



青木さんが送信した「二回目のメール」



「担当者からの返信メール」

4 総合的な学習の時間で、地元の伝統工芸である「焼き物」について調べている青木さんのグループは、「ふるさと焼き物館」で焼き物作りの体験をしたいと考え、担当者とのメールのやりとりをしています。次は、青木さんが送信した「二回目のメール」で、担当者からの返信メール、青木さんが送信する「二回目のメールの下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

一 線部①と線部②の漢字の正しい読みをひらがなで書いていねいに書きなさい。

二 線部③「随時」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 別のとき
- 2 次第に
- 3 少しの間
- 4 そのときどき

三 線部④「行く」とありますが「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類を次の1から3までの中から一つ選びなさい。

- 1 尊敬語
- 2 謙譲語
- 3 丁寧語

四 青木さんは「二回目のメールの下書き」の□の部分に、事前に確かめておきたいこととして、次の〈確認事項〉について書くつもりです。あなたならどのように書きますか。書き出しの「なお」に続けて、相手に失礼のないように書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈確認事項〉

- ・ 持ち物と服装について
- ・ 写真撮影の許可について

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

なお、

## 出題の趣旨

- ・ 文脈に即して漢字を正しく読むこと
- ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること
- ・ 相手や場に応じて敬語を適切に使うこと
- ・ 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと

漢字の指導については、社会生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、中学校3年間を通して常用漢字の大体を読めるようにするとともに、学年別漢字配当表に配当された漢字を使い慣れるようにする必要がある。また、社会生活において確実に使えることを重視し、生徒の習得の実態に応じた指導を充実することが大切である。漢字を読む能力としては、漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことができるようにすることが求められる。そのため、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図ることが大切である。

語句・語彙の指導については、日常生活や社会生活の中で使われる多様な語句に関心を持ち、話や文章の中でどのように使用されているかや、自分が理解したり表現したりするときのように用いればよいかについて考えるように指導することが大切である。

敬語の指導については、小学校での学習を踏まえ、個別的・体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを十分に理解するように指導することが大切である。具体的には、基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について理解することが求められる。なお、文化審議会答申「敬語の指針」に示されている尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ（丁寧語）、丁寧語、美化語の5種類については、生徒の実態に応じて取り上げることも考えられる。

このような〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)に示された「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ 漢字に関する事項」については、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、それぞれの事項について指導することが大切である。

本問では、これらのことを踏まえて、焼き物作りの体験について、担当者と電子メールのやりとりをするという場面を設定した。文脈に即して漢字を正しく読んだり、語句の意味を考えたりすることに加え、相手や場に応じて適切に敬語を使うことを求めている。さらに、「B 書くこと」の指導事項について出題し、体験先を訪れるに当たって事前に確かめておきたいことについて、相手に失礼のないように書くことを求めている。

### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 B 書くこと

ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

### 設問一

#### 趣旨

文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。

### ■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ

(ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。

## 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率 (%)	正答	
4	①	1	「の(ばして)」と解答しているもの	97.5	◎
		99	上記以外の解答	1.0	
		0	無解答	1.4	
	②	1	「しょうさい」と解答しているもの	88.9	◎
		2	「しょうさい」のうち「しょう」だけ正しく解答しているもの	0.2	
		3	「しょうさい」のうち「さい」だけ正しく解答しているもの	4.2	
		99	上記以外の解答	4.5	
		0	無解答	2.3	

## 2. 分析結果と課題

- ①の解答類型99について、「しん(ばして)」や「ひきの(ばして)」などという誤答が見られた。
- ②の解答類型3について、「せんさい」や「せいさい」、「ようさい」などという誤答が見られた。解答類型99については、「さいしょう」や「さいよう」などという誤答が見られた。

(過去の調査における正答率との比較)

( ) の中は実施年度/実施学年

出題漢字	過去の調査	過去の出題時の設問	正答率	
			過去の調査	今回の調査
詳細	全国学力・学習状況調査 (平成27年度/第3学年)	詳細に述べる。	78.7%	88.9%
「詳」は、学年別漢字配当表以外の常用漢字、「細」は、小学校第2学年の配当漢字。				

平成27年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>9</sup>ニ1では、「せんさい」、「せいさい」などという誤答が見られた。

### 3. 学習指導に当たって

#### 文脈に即して漢字を正しく読む

漢字の読みについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読む必要がある。漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことが求められる。そのため、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図るように指導することが引き続き大切である。

例えば、〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」、「C読むこと」の指導において、必要に応じて、辞書を活用して漢字の音訓を確かめたり、その漢字が用いられたいろいろな語句を実際の文章の中で使ったりするなどの学習活動が考えられる。また、「A話すこと・聞くこと」の指導においても、例えば、同音の語句の意味に誤って理解されそうなどときには、漢字を例示することでこれを避けるといったような活動を取り入れるなど、機会があるごとに漢字を意識するように指導することが考えられる。

指導に当たっては、平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>8</sup>一に係る授業アイデア例「定着しにくい漢字や間違いやすい漢字について、意識をもって読み書きできるようにする。」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語-10「これで納得！私たちが身に付けるべき常用漢字」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>3</sup>三「漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる。」も参考になる。

(参照)

「平成21年度【中学校】報告書」P.195

「4年間のまとめ【中学校編】」P.111

「言語活動事例集【中学校版】」P.37～P.38

## 設問二

### 趣旨

事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかどうかをみる。

#### ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ

(り) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。



## 1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
4	二	1	1と解答しているもの	6.7	
		2	2と解答しているもの	11.0	
		3	3と解答しているもの	6.8	
		4	4と解答しているもの	74.4	◎
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	1.1	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型1～3の反応率の合計は24.5%である。このように解答した生徒は、「随時」という言葉になじみがなく、意味が理解できていないものと考えられる。また、「他時」、「漸次」、「暫時」など、他の語句の意味との区別ができていないものとも考えられる。

## 3. 学習指導に当たって

### 事象や行為などを表す多様な語句について理解する

事象や行為などを表す多様な語句については、生活の中の様々な場面や状況に応じて、適切に使うことができるように指導することが大切である。

例えば、本問のように電子メールをやりとりする場面を設定し、目的や意図に応じた適切な表現について考えるなどの学習活動が考えられる。その際、辞書を活用して似た意味をもつ語句を調べたり、複数の語句を比べてどれが最もふさわしい表現かを検討したりすることも効果的である。

指導に当たっては、平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>8</sup>三に係る授業アイデア例「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるようにする」、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>7</sup>三に係る授業アイデア例「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるようにする」、平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>8</sup>三に係る授業アイデア例「言葉を集め、言葉カレンダーを作ろう」、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>9</sup>五に係る授業アイデア例「自分が使ってみたい語句についてスピーチをする」、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>8</sup>三に係る授業アイデア例「自分だけの『語彙手帳』を基に、言葉を使いこなそう」も参考になる。

(参照)

- 「平成21年度【中学校】授業アイデア例」P. 2
- 「平成21年度【中学校】報告書」P. 200
- 「4年間のまとめ【中学校編】」P. 110
- 「平成24年度【中学校】報告書」P. 162
- 「平成26年度【中学校】授業アイデア例」P. 8
- 「平成29年度【中学校】授業アイデア例」P. 4
- 「平成30年度【中学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4

## 設問三

## 趣旨

相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかどうかをみる。

## ■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ

(ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

## 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
4	三 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 以下のa, bのいずれかを書いている。 a 「伺う」, 「参る」。 b 「ご訪問する」, 「お訪ねする」など、状況に合うa以外の言葉。 ② 敬語の種類として2を選んでいる。		
	1	条件①a, ②を満たして解答しているもの * 「うかがう」, 「まいる」と解答しているものも正答とする。	35.3 ◎
	2	条件①b, ②を満たして解答しているもの	5.6 ◎
	3	条件①を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	16.6
	4	条件②を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	16.3
	99	上記以外の解答	24.4
	0	無解答	1.7

## 2. 分析結果と課題

○ 解答類型1, 2の反応率の合計は40.9%である。解答類型2については、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (行く) ご訪問する, (敬語の種類) 2
- ・ (行く) お訪ねする, (敬語の種類) 2
- ・ (行く) 行かせていただく, (敬語の種類) 2

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (行く) 伺う, (敬語の種類) 1
- ・ (行く) 参る, (敬語の種類) 3

このように解答した生徒は、「行く」を適切な敬語に直すことはできているが、その敬語が謙讓語であることが理解できていない。

- 解答類型4について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (行く) 向かう, (敬語の種類) 2
- ・ (行く) 訪ねる, (敬語の種類) 2

このように解答した生徒は、相手や場に応じて謙讓語を用いることが適切であることは理解しているが、具体的な言葉を書くことができていない。

- 解答類型99について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (行く) いらっしゃる, (敬語の種類) 1
- ・ (行く) 行かれる, (敬語の種類) 1

このように解答した生徒は、尊敬語と謙讓語を適切に使い分けることができていない。

### 3. 学習指導に当たって

#### 相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う

言葉遣いについては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要がある。その際、公的な場面で改まった言葉遣いをすることのほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するように指導することが大切である。

例えば、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(2)「イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。」などとの関連を図った学習活動が考えられる。その際、自分の発信した情報がどう受け止められるかを想像したり、相手の状況や媒体の特性などを考慮したりして書くように指導することが重要である。



## 設問四

## 趣旨

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる。

## ■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

ウ 事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。 《記述》

## 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
4	四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 〈確認事項〉にある内容を全て含めて書いている。 ② 「なお,」に続けて文意が通じるように書いている。 ③ 相手に失礼のないように，適切な言葉遣いで書いている。 ④ 相手に失礼のないように，適切な内容を加えて書いている。 (正答例) ・ (なお,) 事前に教えていただきたいことがあります。当日の持ち物と服装について何か気を付けることはありますか。また，体験している様子を写真撮影することはできますか。 今回の学習を通して多くのことを学びたいと思っています。よろしく願いいたします。(解答類型1) ・ (なお,) 事前に確かめておきたいことは以下の点です。 ・ 持ち物と服装について ・ 写真撮影の許可について (解答類型2)		
	1	条件①, ②, ③, ④を満たして解答しているもの	36.7	◎
	2	条件①, ②, ③を満たして解答しているもの	35.5	◎
	3	条件①, ②を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの * 条件④を満たしているかどうかは不問とする。	1.4	
	4	条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの * 条件④を満たしているかどうかは不問とする。	0.3	
	5	条件②, ③を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの * 条件④を満たしているかどうかは不問とする。	6.7	
	99	上記以外の解答	9.8	
	0	無解答	9.6	

## 2. 分析結果と課題

- 解答類型1, 2の反応率の合計は72.2%である。解答類型1については、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (なお,) 焼き物作りの体験をする際にこちらで用意した方がよい持ち物や、服装の注意点について教えていただけますか。また、体験中に写真撮影を行ってよいでしょうか。  
教えていただけると助かります。よろしくお願いいたします。
- ・ (なお,) 持ち物と服装について何か必要なものはございますか。また、写真撮影をしてもよろしいでしょうか。  
御連絡をお待ちしております。

このように解答した生徒は、伝えたいことを明確にした上で、「教えていただけると助かります。」「御連絡をお待ちしております。」など、相手に失礼のないように、適切な内容を加えて書いている。相手や場に応じて、このような配慮をすることも大切である。

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (なお,) 当日はどのような服装でいらっしゃったらよろしいですか。また、必要な持ち物がある場合にはお聞きになりたいです。写真を撮ることができるかどうか教えてください。

このように解答した生徒は、相手に失礼のないように、適切な言葉遣いで書くことができていない。敬語を適切に用いて書くことに課題がある。

- 解答類型4について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (なお,) 持ち物と服装について、写真撮影の許可について、確認事項。

このように解答した生徒は、「なお,」に続けて文意が通じるように書くことができていない。

- 解答類型5について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (なお,) 撮影について確認したいことがあります。

このように解答した生徒は、伝えたい事柄を明確に書くことができていない。

### 3. 学習指導に当たって

#### 目的や意図に応じて、読み手に分かりやすく伝わるように書く

伝えたいことを読み手に分かりやすく伝えるためには、目的や意図に応じて説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりするように指導することが大切である。その際、これまでの「B書くこと」の学習で身に付けた資質・能力を生かし、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫するように指導することも重要である。

例えば、本問の設問三と同様に、社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなどの学習活動が考えられる。その際、第2学年〔知識及び技能〕(1)の「イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。」との関連を図り、音声言語としての話し言葉と文字言語としての書き言葉の特徴について理解するように指導することも有効である。

指導に当たっては、平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>1</sup>三アに係る授業アイデア例「身近な資料を用いて、表現の仕方や文章の特徴をとらえ、自分の表現に役立てることができるようにする。」、平成22年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>9</sup>二に係る授業アイデア例「相手に応じた適切な表現で案内文を書くことができるようにする。」、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>2</sup>三に係る授業アイデア例「資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことができるようにする。」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>3</sup>二に係る授業アイデア例「合唱コンクール必勝法を伝えるポスターを書く」、平成27年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A<sup>7</sup>二に係る授業アイデア例「問合せのメールに回答する」、平成28年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B<sup>1</sup>三に係る授業アイデア例「係の活動への協力を呼びかけるちらしを作る」、令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語<sup>3</sup>に係る授業アイデア例Ⅰ、Ⅱ「自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書くことができるようにする。」も参考になる。

(参照)

- 「平成21年度【中学校】授業アイデア例」P. 3
- 「平成21年度【中学校】報告書」P. 214
- 「4年間のまとめ【中学校編】」P. 102
- 「平成22年度【中学校】授業アイデア例」P. 2
- 「平成22年度【中学校】報告書」P. 136
- 「平成24年度【中学校】報告書」P. 199
- 「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P. 13～P. 14
- 「平成27年度【中学校】授業アイデア例」P. 3
- 「平成28年度【中学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6
- 「令和2年度【中学校国語】調査問題活用の参考資料」P. 22～P. 29











